

統計データから

## 世界のオレンジ果汁逼迫の背景

わが国の果実の生果用・果汁等加工品の国内需要（2023年）は、国内生産が38%で、輸入品が62%である。国内生産の88%が生果用であるのに対し、輸入品では生果用が44%（そのうちバナナが60%）で、果汁等加工品が56%と多い。

オレンジジュースの原料となるオレンジ果汁は、その需要量の9割強が輸入品で、全輸入果汁等加工品の11%を占めている。その輸入先はブラジルが約70%を占め圧倒的であった（表-1、2011年）。世界で飲まれるオレンジジュースの5杯のうち3杯をブラジル産が占めていると言われるくらいに、ブラジルは加工用オレンジの最大生産国である。

ところが、そのブラジルで天候不順や病害によるオレンジの不作によって、生産量の急減と在庫の逼迫等が生じ、世界中でオレンジ果汁の争奪戦が起こっている。

その影響で、わが国のブラジルからのオレンジ果汁の輸入量は2023/2011年対比で50.6%に落ち込み、その代替にイスラエル、メキシコ、スペイン、イタリアからの輸入が増えているが、全体の輸入量は2023/2011年対比で68.9%と十分量を確保出来ていない。そのために、飲料メーカーなどの間で、オレンジジュース製品の販売休止や値上げが相次いでいる。

これは果汁の国産シェア奪還のチャンスとも言えるが、原料の取引価格の安さに加え、国内の生産基盤も弱体化し、国産のみかんの収穫量はオレンジの輸入が自由化された1991年の158万t近くから、2022年では68万tと半分以下に減少し、増産は容易ではない。ただ、国産かんきつジュースを高品質な嗜好品として、消費者に受け入れてもらう機会にしたいところである。

(K.O)

表-1 オレンジ果汁輸入実績（国別）（財務省貿易統計）

年度	単位	合計	ブラジル	イスラエル	メキシコ	スペイン	イタリア	ギリシャ	アメリカ	豪州
2023	数量 (kg)	68,238,925	35,409,845	15,150,477	8,717,144	3,053,477	2,216,663	654,662	631,444	611,146
	割合※ (%)	100	51.9	22.2	12.8	4.5	3.2	1.0	0.9	0.9
2011	数量 (kg)	99,083,119	69,957,012	12,335,177	5,025,280	2,172,719	2,342,283	119,733	1,191,834	1,056,696
	割合※ (%)	100	70.6	12.4	5.1	2.2	2.4	0.1	1.2	1.1

注) ※は輸入量全体に対する各国の割合